

群馬県羅漢町遺跡出土近世人骨

梶 崎 修一郎

厚生労働省社会援護局援護企画課外事室

はじめに

1. 調査の概要と分析方法

2. 遺構出土人骨

3. 遺構外出土人骨

まとめ

— 要 旨 —

羅漢町遺跡は、群馬県高崎市羅漢町に所在する。国道354号羅漢町道路改良事業に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、2009(平成21)年11月1日～同11月30日まで行われた。発掘調査報告書は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第512集『羅漢町遺跡』として、2011(平成23)年1月24日に発行され、本報告者により「4 出土品の鑑定・分析、(1)羅漢町遺跡出土人骨」として報告されている。その報告書の中では、遺構出土人骨として、29体を報告したが、報告書の頁数の制限により詳細な記載や写真掲載ができなかったため、ここに再度報告するものである。

この羅漢町遺跡は、慶長3(1598)年に築造された高崎城とほぼ同時期に創建され、現在も同所に所在する法輪寺の墓域にともなうものと推定され、年代は、出土遺物より、17世紀後半～19世紀中葉に比定されている。人骨は、遺構としては、27基の木棺墓から28体が、1基の土坑から1体の人骨の合計29体出土した。また、遺構外からは、2体と蔵骨器から2体の火葬人骨が出土した。合計で、33体の近世人骨が出土している。出土人骨の性別は、男性14体・女性19体で、この内、女性1体は約9歳～10歳の未成年であるが、その他の32体はすべて成人である。身長推定ができた個体は9体で、男性2体・女性7体である。男性2体はどちらも約156cmと推定され、女性7体は約145cm～156cmと推定された。男女共に、近世人骨の推定身長範囲に収まる。古病理として、冠状縫合の右側のみが早期に癒合した頭蓋骨縫合早期癒合症の個体1個体と広汎性特発性骨増殖症(DISH)の個体1個体が認められた。本遺跡出土人骨は、群馬県出土近世人骨としては最大級であり、群馬県の歴史に貴重な情報をもたらした。しかしながら、本遺跡出土人骨は遺物としては認定されなかったため、人骨の調査終了後、法輪寺に返却され茶毘にふされている。

キーワード

対象時代 近世

対象地域 日本・群馬県

研究対象 近世人骨・形態・古病理

はじめに

羅漢町遺跡は、群馬県高崎市羅漢町に所在する。国道354号羅漢町道路改良事業に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、2009(平成21)年11月1日～同11月30日まで行われた。発掘調査報告書は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第512集『羅漢町遺跡』として、2011(平成23)年1月24日に発行され、本報告者により「4 出土品の鑑定・分析、(1) 羅漢町遺跡出土人骨」として報告されている(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011、檜崎 2011)。

本遺跡からは、近世人骨33個体が出土している。本報告者が知る限り、群馬県内の遺跡で最大級であると推定され、群馬県出土近世人骨の形態を知る重要な遺跡である。しかしながら、報告書では頁数の制限により、僅か4頁しか掲載が許されなかったために、個体数・性別・死亡年齢のみの簡単な記載しかなされておらず、遺構外出土人骨の報告はなされていない。

報告書刊行後、担当者による見直しが検討され、一部、遺構名称等が変更されている。報告書と今回との大きな変更点は、報告書で2号木棺とされたものは3号木棺の天蓋であることが推定されており、欠番となっている点・16号木棺がaとbの2つに分かれた点・26号木棺がa～cの3つに分かれた点である。

そこで、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の年報紀要委員の同意を得て、本稿を発表したい。

1. 調査の概要と分析方法

(1) 遺跡の概要

本遺跡は、慶長3(1598)年に築造された高崎城とほぼ同時期に創建され、現在も同所に所在する法輪寺に伴う墓域と推定され、時期は、出土遺物より17世紀後半～19世紀中葉に比定されている。この法輪寺は、高崎城の城域の東側に形成された城下町の東端部を画す南北方向の「遠構」の堀の内側(西側)に当たる(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011)。

(2) 人骨の出土状況

人骨の出土状況は、そのほとんどが木棺墓である。実際、人骨は27基の木棺墓から28体が出土しており、その他1基の土坑から1体が出土している。なお、遺構外からも人骨が多数出土しているが、今回は、頭蓋骨が出土している2体と蔵骨器から出土した火葬人骨2体のみを報告する。

但し、木棺墓は重複しているものが多く、木棺墓を構築する際に古い木棺墓が破壊されており、まともに全身骨格が残存しているものは非常に少なかった。

なお、木棺墓の側板の樹種同定が行われており、それによると、マツ属が圧倒的に多く、その他、スギ・ヒノキ・カヤと続いている(財団法人群馬県埋蔵文化財調査

事業団 2011)。さらに、22号木棺墓では、底板及び側板に墨書が検出されたが、これらは宗門人別改帳や金銭関係の帳簿等の反古紙の文字が転写したもので被葬者とは関係が無いと考察されている(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011)。



写真1. 羅漢町遺跡出土人骨出土状況(3号・4号木棺)
[2009年11月20日、本報告者が西から撮影]

(3) 人骨の残存状態

出土人骨の残存状態は、群馬県内の他の近世人骨と比較すると良い。これは、台地上に位置する他の近世遺跡と比較して、常に水に浸っている状態であるからであると推定される。その残存状態は、経験則であるが、東京都の近世墓坑出土人骨とほぼ同様である。東京都の低地に位置する近世墓坑も、本遺跡と同様に常に水に浸っている状態であるため、人骨の残存状態は良い場合が多い。そのためか、この羅漢町遺跡出土近世人骨には、多数、脳が残存していた。この点も、東京都の近世墓坑出土人骨と同様である。

(4) 人骨の計測方法

人骨の計測は、マルティン(R. MARTIN)の方法にしたがった(馬場 1991)。

(5) 身長 の推定方法

保存状態の良い四肢骨からの身長 の推定方法は、藤井の式を使用した(藤井 1960)。藤井の式の内、上腕骨・橈骨・尺骨・大腿骨・脛骨・腓骨の最大長を用いて身長を推定したが、藤井の方法は男性と女性で身長推定式が異なる。本遺構では、男女が混在している可能性が高いため、念のため、一部位毎に、男性と女性の身長推定式を用いて身長を推定した。

(6) 人骨の埋葬方法

木棺墓の大きさは、平均で、長軸約50cm・短軸約45cm・高さ約60cmであり、実験では座って両脚を胴体に付け、首を前側に折り曲げた状態の座棺がその納め方として最も妥当なものであると推定されている。

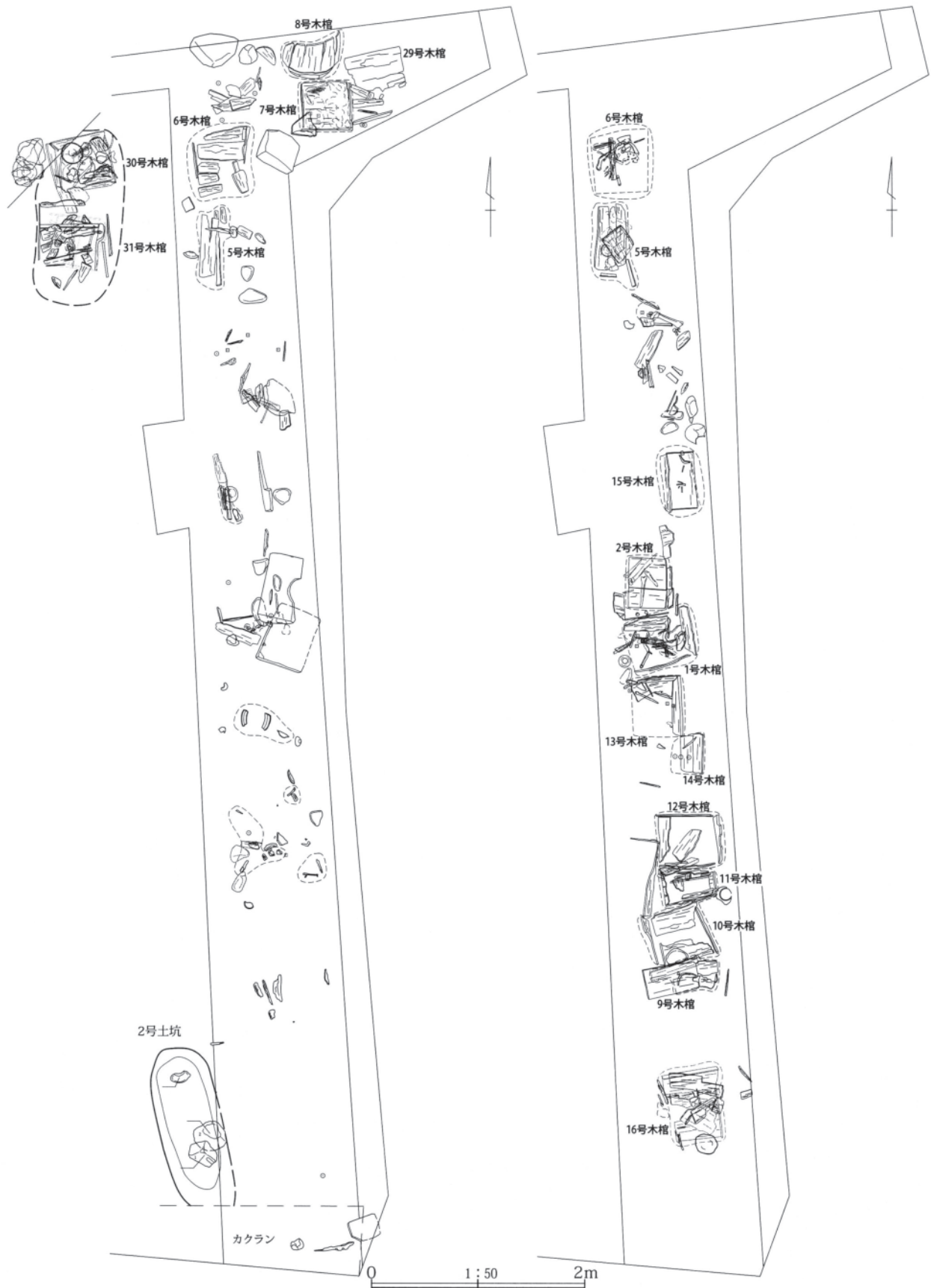


図1. 羅漢町遺跡A区1面平面図（植崎 2011） 図2. 羅漢町遺跡A区2面平面図（植崎 2011）
 [再検討により、2号木棺は3号木棺の天蓋だと推定されるため、人骨は旧2号木棺も併せて3号木棺として報告している。]

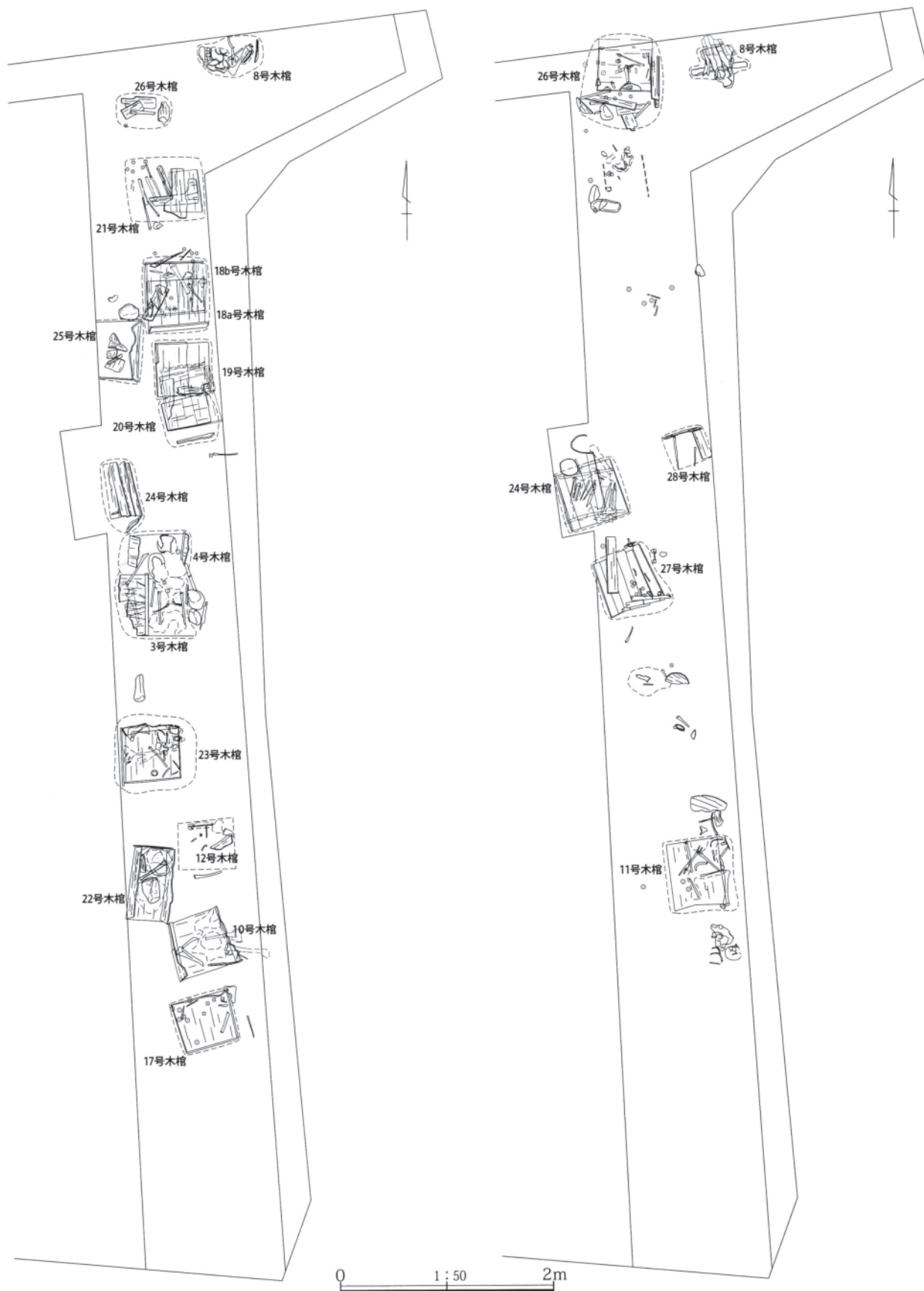


図3. 羅漢町遺跡A区3面平面図（梶崎 2011） 図4. 羅漢町遺跡A区4面平面図（梶崎 2011）
 [平面図には、28号木棺までしか記載が無いため、本稿で報告した1号土坑は記載されていない。]

2. 遺構出土人骨

(1) 1号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約45cm）。樹種は、マツ属とマツ属複雑管束亜属に同定。
- ②副葬品：漆碗・磁器小碗・寛永通宝1点。
- ③出土部位〔表1参照〕：頭蓋骨・下顎骨・遊離歯・左右鎖骨・左上腕骨・左右尺骨・左橈骨・左大腿骨・左脛骨・左腓骨等が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別〔表27参照〕：頭蓋骨は大きく頑丈であり、四肢骨も大きく頑丈であるため、男性であると推定される。寛骨は破損しており、確認できなかった。
- ⑥死亡年齢：頭蓋縫合の内、冠状縫合及び矢状縫合の内板はほぼ癒合しており、同縫合の外板は、癒合しかかっている状態である。ラムダ縫合部は、破損している。遊離歯の咬耗度は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。総合的に、約30歳代～40歳代であると推定される。



写真2. 1号木棺出土人骨頭蓋骨上面観〔左が前〕

表1. 1号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
33	左大腿骨	137	頭蓋骨
34	骨片	138	右鎖骨
35	骨片	139	骨片
92	遊離歯	140	左鎖骨
93	遊離歯	141	下顎骨
94	遊離歯	142	左脛骨
95	骨片	143	寛骨？
96	右上腕骨	144	左橈骨・左尺骨
97	左上腕骨	168	遊離歯
98	右尺骨	169	左腓骨
99	骨片		

(2) 3号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約60cm・短軸約45cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：元豊通宝？1点・鉄釘。
- ③出土部位〔表2参照〕：頭蓋骨・下顎骨・脊椎骨・上腕骨・左右大腿骨・左右脛骨・中足骨等が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：頭蓋骨は、眉弓が発達しており乳様突起が大きく下顎骨も頑丈で大きい。また、四肢骨も大きく頑丈であるため、男性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：頭蓋縫合を観察すると、主要縫合である冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合の内板はすべて癒合しており、外板は癒合しかかっている状態である。同様に、切歯縫合も癒合して消失している状態である。また、上下顎の歯は少なくとも、19本が生前脱落している状態であるので、総合的に高齢であると推定される。
- ⑦古病理：上顎骨の左右小白歯及び大白歯すべてが生前脱落し、歯槽も閉鎖した状態である。また、下顎骨では、左右第1切歯～第1小白歯の8本・右第2大白歯が生前脱落している。この内、左右第3大白歯は、遊離歯が出土しているが脱落直前の状態であったと推定される。
- ⑧備考：脳の一部が出土している。

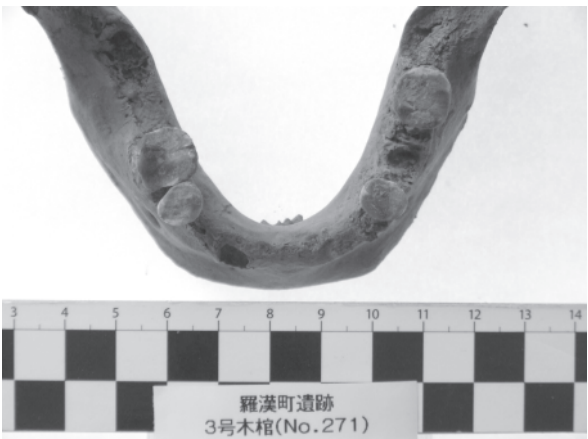


写真3. 3号木棺出土人骨下顎骨咬合面観〔生前脱落〕

表2. 3号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
271	下顎骨・脊椎骨	85	左脛骨片
275	右大腿骨	86	右脛骨片
276	中足骨	87	四肢骨片
83	上腕骨・骨頭部	88	左第1中足骨
84	左大腿骨	89	左中足骨

註：No.83・84・85・86・87・88・89は、旧2号木棺出土人骨として報告されたものである。

(3) 4号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約30cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：寛永通宝 5 点。
- ③出土部位〔表3 参照〕：頭蓋骨及び四肢骨を含め、ほぼ全身骨格が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1 個体であると推定される。
- ⑤性別〔表27参照〕：頭蓋骨は、前頭結節が認められ、眉弓は発達しておらず、乳様突起も小さい。四肢骨も小さく華奢であるため、女性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：頭蓋縫合は、矢状縫合は内板が少し癒合している状態であるが、冠状縫合及びラムダ縫合は開放の状態である。歯の咬耗度は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの3度の状態である。総合的に、約30歳代であると推定される。
- ⑦備考：脳の一部が出土している。

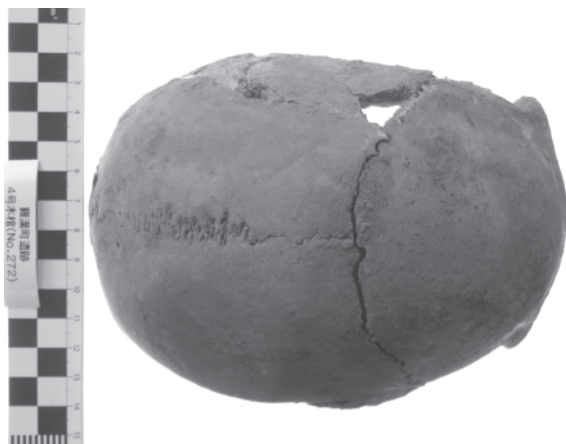


写真4. 4号木棺出土人骨頭蓋骨上面観 [右が前]

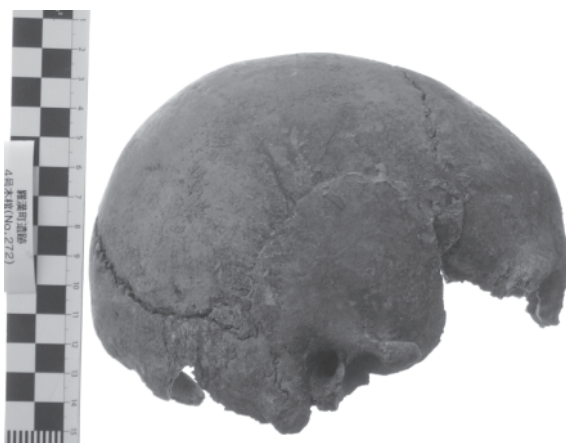


写真5. 4号木棺出土人骨頭蓋骨右側面観 [右が前]

表3. 4号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
272	頭蓋骨・四肢骨片

(4) 5号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約60cm・短軸約30cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：漆椀・盆。
- ③出土部位〔表4 参照〕：左右大腿骨等の四肢骨片。
- ④個体数：出土四肢骨には重複部位が認められないため、1 個体であると推定される。
- ⑤性別：大腿骨は、大きく頑丈であるため、男性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

表4. 5号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
79	四肢骨片
90	左大腿骨
91	骨片

(5) 6号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約45cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：漆椀・箸・数珠・櫛・寛永通宝 6 点。
- ③出土部位〔表5 参照〕：ほぼ全身骨格が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1 個体であると推定される。
- ⑤性別：四肢骨は大きく頑丈であるため、男性であると推定される。



写真6. 6号木棺出土人骨下顎骨咬合面観

- ⑥死亡年齢：下顎歯の咬耗度を観察すると、下顎左犬歯は象牙質が点状に露出する程度のマルティンの3度の状態であるが、他の歯はエナメル質のみのマルティンの2度の状態である。約20歳代であると推定される。
- ⑦古病理：下顎左第3大臼歯は、正常に垂直萌出をしておらず、水平萌出をしており、歯冠が水平に第2大臼歯の遠心面にあたっている。
- ⑧備考：脳の一部が出土している。

表5. 6号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
146	頭蓋骨	154	中手骨
147	右脛骨	155	中足骨
148	右腓骨	156	中足骨
149	左脛骨	157	中手骨
150	左大腿骨	158	中足骨
151	右橈骨	214	左鎖骨
152	右尺骨	215	肋骨
153	右上腕骨		

(6) 7号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約45cm・短軸約45cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：銅製環状製品。
- ③出土部位〔表6参照〕：遊離歯・四肢骨片が出土している。
- ④個体数：出土遊離歯には、重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：出土遊離歯の内、永久歯の歯冠計測値が小さいため、女性（女兒）であると推定される。
- ⑥死亡年齢：遊離歯は、乳歯と永久歯との混合歯列である。歯の咬耗度がほとんど認められず、かつ、乳歯の歯根の吸収度合及び永久歯の歯根の発達度合から、約9歳～10歳であると推定される。

表6. 7号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
54	遊離歯
55	遊離歯・四肢骨片

(7) 8号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：円形木棺墓（底面直径約50cm）。樹種は、スギに同定。
- ②副葬品：寛永通宝9点。
- ③出土部位〔表7参照〕：右上腕骨・肋骨・脊椎骨・左右寛骨・右大腿骨・右脛骨・右腓骨が出土している。
- ④個体数：出土四肢骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：左右寛骨の大坐骨切痕部の角度は、鈍角で約90度に近い角度であるため女性である。
- ⑥死亡年齢：左寛骨恥骨結合部の観察から、約30歳代～40歳代であると推定される。
- ⑦身長：右上腕骨（No.228）の最大長は267mmであり、生前の身長は約144.8cmと推定された。
- ⑧古病理：古病理ではないが、左右寛骨の耳状面前溝部に妊娠痕が認められた。この妊娠痕は、妊娠及び出産に伴い形成されるため、被葬者は、少なくとも妊娠あるいは出産を経験していると推定される。



写真7. 8号木棺出土人骨左右寛骨

表7. 8号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
224	脊椎骨・寛骨	227	右脛骨・右腓骨
225	肋骨	228	右上腕骨
226	右大腿骨		

(8) 9号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約70cm・短軸不明）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：検出されていない。
- ③出土部位〔表8参照〕：右肋骨片が出土している。
- ④個体数：右肋骨片には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：右肋骨片は、大きく頑丈であるため、男性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：成人であると推定される。

表8. 9号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
81	肋骨

(9) 10号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：検出されていない。
- ③出土部位〔表9参照〕：頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：頭蓋骨の後頭骨は大きく頑丈であるため、男性的であるが、右寛骨の大坐骨切痕部は鈍角で約90度に近い角度であるため女性である。
- ⑥死亡年齢：死亡年齢指標となる部位が出土していないが、成人であることは間違いない。

⑦備考：脳の一部が出土している。

表9. 10号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
173	頭蓋骨・四肢骨

(10) 11号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約60cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：寛永通宝2点。

③出土部位〔表10参照〕：下顎骨・四肢骨が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：四肢骨は、小さく華奢であるため、女性であると推定される。

⑥死亡年齢：下顎骨を観察すると、大臼歯はすべて生前脱落して歯槽も閉鎖している状態であるので、老齢であると推定される。

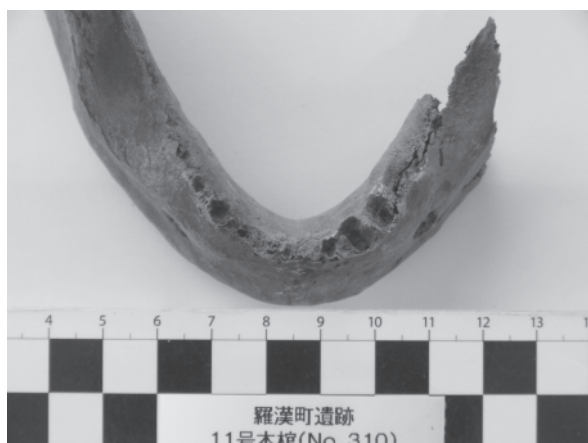


写真8. 11号木棺出土人骨下顎骨

表10. 11号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
68	左大腿骨	310	下顎骨・四肢骨

(11) 12号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：煙管。

③出土部位〔表11参照〕：右橈骨・右尺骨等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：四肢骨は華奢で女性的である。推定身長は女性であれば約153cm・男性であれば約157cmとなり、男性でも女性でも可能性がある。

⑥死亡年齢：成人であると推定される。

⑦身長：右尺骨（No.232）の最大長は241mmであり、生前の身長は約152.8cm～157.1cmと推定された。

表11. 12号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
229	右橈骨・中手骨	232	右尺骨
230	手根骨	233	中手骨・膝蓋骨
231	中足骨		

(12) 13号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約40cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位〔表12参照〕：頭蓋骨片・遊離歯・右尺骨・右大腿骨等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：四肢骨は小さく華奢であるため、女性であると推定される。

⑥死亡年齢：歯の咬耗度は、エナメル質のみのマルティンの2度の状態であるので約20歳代であると推定される。

表12. 13号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
77	下顎小白歯片	103	右大腿骨片
78	骨片	104	左尺骨
101	上顎右第2切歯	105	頭蓋骨片

(13) 15号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約60cm・短軸約55cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位〔表13参照〕：頭蓋骨・下顎骨・遊離歯・中手骨・基節骨（手）等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別〔表27参照〕：頭蓋骨は小さく華奢であるため、女性であると推定される。

⑥死亡年齢：冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合は、一部を除き、内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。出土歯の咬耗度は、一部象牙質が露出するマルティンの2度の状態であり約30歳代と推定される。下顎骨の歯はその多くが生前脱落をしている状態で、老齢に見えるが、咬合が不整に起きたためであると推定される。

⑦古病理：冠状縫合の内、右側は、内板及び外板共に癒合して消失した状態である。一方、冠状縫合の左側は、内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。こ

これは、頭蓋骨縫合早期癒合症であると推定される。この病因として、1990年代にFGFR（繊維芽細胞成長因子受容体）遺伝子の変異によることが判明しているが、まだすべてが解明されたわけではない。その他の病因として、内分泌異常・低酸素症・子宮内感染・分娩時外傷・代謝異常等が指摘されている。

この症例は、研究者により異なるが、約55%の出現率である矢状縫合に次いで2番目に多く、冠状縫合の右側か左側のどちらか一侧に出現する率は約12.6%・両側では約11.6%と報告されている。

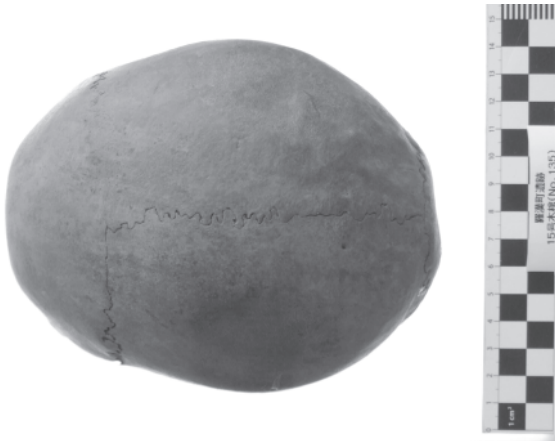


写真9. 15号木棺出土頭蓋骨上面観 [左が前]

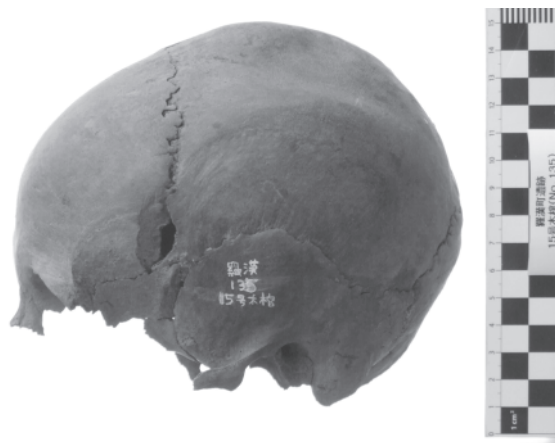


写真10. 15号木棺出土頭蓋骨左側面観 [左が前]



写真11. 15号木棺出土下顎骨咬合面観

表13. 15号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
135	頭蓋骨	166	基節骨(手)
162	中手骨	167	下顎骨
163	骨片	269	腓骨
164	中手骨	270	上顎左第2小白歯
165	骨片		

(14) 16号木棺出土人骨

16号木棺は、報告書段階から2基が重複している可能性が指摘されており、再検討でも同様の結論が出ている。しかしながら、出土人骨には重複部位が認められないため1基として報告する。

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約45cm・短軸約45cm）。樹種は、スギに同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位 [表14参照]：頭蓋骨片・四肢骨片。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。但し、頭蓋骨は男性的で四肢骨は女性的であるので、2個体である可能性も否定できない。

⑤性別：頭蓋骨は厚さが比較的厚く男性的である。四肢骨は比較的華奢であり、女性的である。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

⑦備考：脳が出土している。

表14. 16号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
114	頭蓋骨片	120	脳
115	大腿骨片	121	大腿骨片
116	四肢骨片	122	右大腿骨
118	大腿骨片	123	四肢骨片
119	腓骨片		

(15) 17号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約55cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：煙管・寛永通宝8点。

③出土部位 [表15参照]：遊離歯・左上腕骨・手の基節骨・右第5中足骨等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：四肢骨は比較的小さく華奢で女性的であるが、出土遊離歯の歯冠計測値が大きいため、男性であると推定される。

⑥死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、上顎切歯はエナメル質のみのマルティンの2度であり、下顎犬

歯は象牙質が点状に露出する同3度である。総合的に、約30歳代であると推定される。

⑦古病理：下顎犬歯には、歯石の付着が認められた。

表15. 17号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
181	左上腕骨	185	骨片
182	右第5中足骨	186	上顎左第2切歯
183	基節骨(手)	187	下顎右犬歯
184	骨片		

(16) 18a号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：寛永通宝2点。

③出土部位〔表16参照〕：右鎖骨・左上腕骨・左尺骨・右第5中足骨等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：四肢骨は小さく華奢であるため、女性であると推定される。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

⑦身長：左尺骨（No.198）の最大長は234mmであり、生前の身長は約150.8cm～155.3cmと推定される。

表16. 18a号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
198	左尺骨	201	肋骨
199	四肢骨片	202	右第5中足骨
200	左上腕骨	263	右鎖骨

(17) 18b号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：煙管・寛永通宝5点。

③出土部位〔表17参照〕：右脛骨が出土している。

④個体数：1個体であると推定される。

⑤性別：脛骨は比較的小さく華奢であるため、女性であると推定される。

⑥死亡年齢：恐らく、成人であると推定される。

表17. 18b号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
289	右脛骨	290	四肢骨片

(18) 19号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約50cm）。樹種は、ヒノキ属（側）・マツ属（底）に同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位〔表18参照〕：左上腕骨・左橈骨・左右脛骨等が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：出土四肢骨は、どれも小さく華奢であるため女性であると推定される。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、四肢骨の骨端部は癒合しているので成人である。

⑦身長：右脛骨（No.126）の最大長は311mmであり、生前の身長は約146.3cm～151.0cmと推定された。

表18. 19号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
126	右脛骨	130	大腿骨片
127	胸椎	131	左脛骨
129	左上腕骨	133	左橈骨・大腿骨片

(19) 21号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約45cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位〔表19参照〕：左上腕骨・左右橈骨・左大腿骨・左腓骨・右距骨が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：出土四肢骨は、どれも小さく華奢であるため女性であると推定される。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、四肢骨の骨端部は癒合しているので成人である。

⑦身長：左橈骨（No.245）の最大長は222mmであり、生前の身長は約153.2cm～156cmと推定された。

表19. 21号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
241	右橈骨	245	左橈骨
242	左尺骨	246	左腓骨
243	左上腕骨	247	右距骨
244	左大腿骨		

(20) 22号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約70cm・短軸約40cm）。樹種は、スギに同定。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位〔表20参照〕：頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：頭蓋骨が比較的厚く、大腿骨骨頭も比較的大きいので、男性であると推定される。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

表20. 22号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位
236	頭蓋骨片・四肢骨片

(21) 23号木棺出土人骨

①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸約50cm）。樹種は、マツ属に同定。

②副葬品：磁器小坏・寛永通宝1点。

③出土部位〔表21参照〕：頭蓋骨片・脊椎骨・肋骨・右橈骨・中手骨・左寛骨・中足骨・左右距骨・足根骨等が出土している。

④個体数：右橈骨が2点出土して重複しているため、2個体であると推定される。

⑤性別：右橈骨は、大きくて頑丈なものと小さくて華奢なものであるため、男性1体と女性1体であると推定される。左寛骨の大坐骨切痕部の角度は、鋭角であるため男性であるが、大きくて頑丈な右橈骨と同一個体である可能性が高い。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

⑦身長：右橈骨（No.259）の最大長は223mmであり、右橈骨（No.260）の最大長は213mmである。男性と推定されるNo.259は約156.3cm、女性と推定されるNo.260は約149.6cmと推定された。No.259は女性推定式では約152.7cm、No.260は男性推定式では約153cmと推定された。

⑧古病理：男性と推定される第10及び第11胸椎は、癒合している状態で、広汎性特発性骨増殖症（DISH）であると推定される。このDISHは、脊椎骨の中でも胸椎の前縦靱帯が好発部位であり、ロウソクのロウが溶けて垂れたような形態をしていることが特徴的である。出現部位は、胸椎の中でも、第7胸椎～第11胸椎が多いと言われており、DISHと認定するには少なくとも4個の胸椎が癒合していることが必要であるという研究もある。本例は、第10及び第11胸椎が癒合し、右側がロウソクのロウのように溶けて垂れたような形態をしている。4個が癒合していないが、癒合しつつある過程かもしれない。

表21. 23号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
252	頭蓋骨片・胸骨・肋骨片	257	肋骨片
253	左寛骨	258	肋骨片
254	中足骨・左右距骨・足根骨	259	右橈骨
255	脊椎骨・肋骨	260	左橈骨
256	中手骨		



写真12. 23号木棺胸椎古病理（DISH）〔前面観〕



写真13. 23号木棺胸椎古病理（DISH）〔右側面観〕

(22) 24号木棺出土人骨

①埋葬状態：円形木棺墓（長軸約55cm・短軸約55cm）。樹種は、カヤに同定。

②副葬品：寛永通宝6点。

③出土部位〔表22参照〕：ほぼ全身の骨格が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：出土人骨は、全体的に大きく頑丈であるため、男性であると推定される。

⑥死亡年齢：下顎歯の咬耗度を観察すると、左第1大臼歯は象牙質が面状に露出、同第2大臼歯は象牙質が点状に露出、同第3大臼歯はエナメル質のみの状態である。また、生前脱落も認められるため、約40歳代～50歳代であると推定される。

⑦古病理：下顎左右第1及び第2切歯の少なくとも4本は生前脱落し歯槽も閉鎖した状態である。下顎右側は、犬歯部から大臼歯部にかけて破損している。下顎左第1小臼歯も生前脱落し、歯槽も閉鎖した状態である。

⑧備考：脳が出土している。

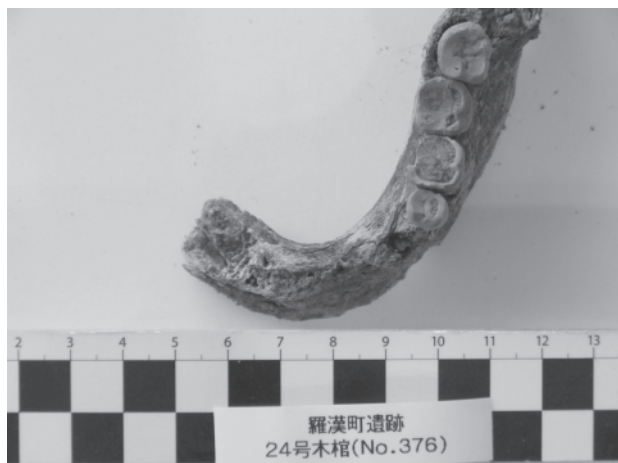


写真14. 24号木棺出土下顎骨咬合面観

表22. 24号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
262	骨片	382	四肢骨片
376	頭蓋骨片・下顎骨	383	寛骨片
377	骨片	384	右大腿骨片
378	腓骨片	385	中足骨・足根骨
379	脛骨片・左距骨	386	骨片
380	左大腿骨片	387	不明
381	腓骨片		

(23) 26号木棺出土人骨

26号木棺は、その後の見直しで26号a・26号b・26号cの3基が混在していると指摘されている。実際、副葬品の寛永通宝は18点検出されており、通常のものよりは多い。但し、芳賀東部工業団地遺跡の近世土坑墓からは、1基から11点から17点の寛永通宝が出土している事例もあり、寛永通宝の点数だけでは判断ができない。人骨には特に重複部位が認められないため、1基として取り扱うことにする。

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約50cm・短軸不明）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：寛永通宝18点。
- ③出土部位〔表23参照〕：前頭骨・脊椎骨・肋骨・右尺骨・左右大腿骨・腓骨・右膝蓋骨等が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：出土人骨は、比較的大きく頑丈であるため男性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。
- ⑦身長：右尺骨（No.354）の最大長は238mmであり、生前の身長は約156.1cmと推定される。

表23. 26号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
322	腓骨片	360	第1頸椎
323	右大腿骨	361	頸椎
324	左大腿骨片	362	中手骨
325	前頭骨片	363	頸椎
352	左大腿骨	364	基節骨(手)
354	右尺骨	365	右第1基節骨(足)
355	胸椎	366	左第1肋骨
356	不明	367	左第1中手骨
357	左第12肋骨	368	右膝蓋骨・右第2中足骨
358	肋骨片	369	胸椎
359	右第12肋骨		

(24) 27号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約55cm・短軸約50cm）。樹種は、スギに同定。
- ②副葬品：寛永通宝6点。
- ③出土部位〔表24参照〕：頭蓋骨片・脊椎骨・肋骨・中手骨・中足骨・足根骨等が出土している。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：出土人骨は、比較的大きく頑丈であるため男性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

表24. 27号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
334	頸椎	340	胸椎
335	肋骨片	341	左第2中足骨
336	右第2中手骨	346	頸椎
337	左距骨	347	頸椎
338	右第3楔状骨	348	頭蓋骨片
339	左舟状骨	349	不明

(25) 28号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約40cm・短軸約30cm）。樹種は、マツ属に同定。
- ②副葬品：検出されていない。
- ③出土部位〔表25参照〕：右橈骨・右腓骨が出土。
- ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑤性別：出土人骨は、比較的小さく華奢であるため女性であると推定される。
- ⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、四肢骨の骨端部は癒合しているので成人であると推定される。

表25. 28号木棺出土人骨リスト

No.	同定部位	No.	同定部位
389	右橈骨	390	右腓骨

(26) 30号木棺出土人骨

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約45cm・短軸約40cm・高さ約60cm）。樹種は、マツ属に同定。
 ②副葬品：煙管。
 ③出土部位〔表26参照〕：ほぼ、全身骨格が出土。
 ④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
 ⑤性別〔表27参照〕：頭蓋骨は小さく華奢であり、乳様突起も小さい。また、四肢骨は小さく華奢であるため、総合的に女性であると推定される。



写真15. 30号木棺出土頭蓋骨上面観 [右が前]

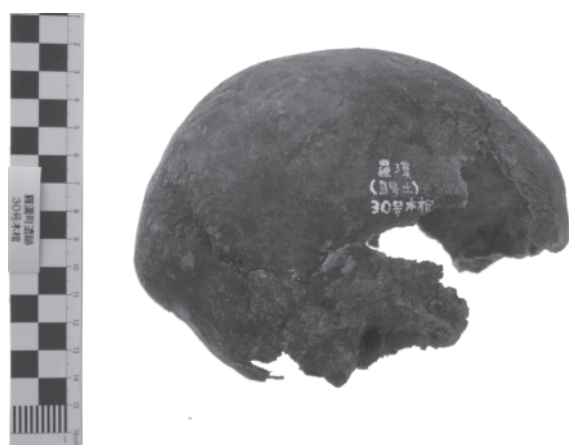


写真16. 30号木棺出土頭蓋骨右側面観 [右が前]

- ⑥死亡年齢：頭蓋縫合の、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合の内板は、癒合して消失している。矢状縫合の外板も、癒合してほぼ消失している状態である。しかしながら、歯の咬耗度はほとんどの歯はエナメル質のみのマルティンの2度の状態で、一部の歯に象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態である。このような場合、

別個体であると推定するところであるが、土坑から1体分の全身骨格が出土しているので、どちらの観察結果を採用するかが困難である。総合的に約30歳代～40歳代であると推定される。

- ⑦古病理：多くの歯に、歯石の付着が認められた。

(27) 31号木棺出土人骨 [旧4号土坑]

- ①埋葬状態：方形木棺墓（長軸約45cm・短軸約45cm・高さ約50cm）。樹種は、マツ属に同定。
 ②副葬品：検出されていない。
 ③出土部位：ほぼ、全身骨格が出土している。
 ④個体数：出土人骨には重複部位がみとめられないため、1個体であると推定される。
 ⑤性別〔表27参照〕：頭蓋骨は、眉弓は発達しておらず前頭結節が発達しており乳様突起は小さい。四肢骨は小さく華奢である。総合的に、女性であると推定される。



写真17. 31号木棺出土頭蓋骨上面観 [右が前]

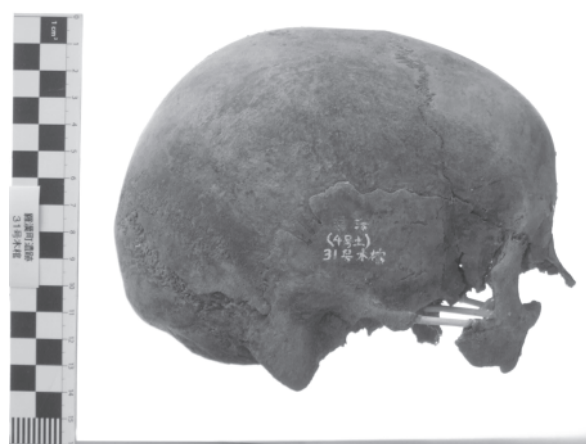


写真18. 31号木棺出土頭蓋骨右側面観 [右が前]

- ⑥死亡年齢：冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合すべての内板は癒合している。一方、外板は癒合していない状態である。総合的に、約30歳代であると推定される。
 ⑦身長：左大腿骨の最大長は387mmであり、生前の身長

は約150.3cmと推定される。

⑧古病理：下顎骨左の臼歯部は、生前脱落をしており歯槽も閉鎖した状態である。

⑨備考：脳が出土している。

(28) 1号土坑出土人骨

①埋葬状態：長軸約165cm・短軸約80cm・深さ約30cmの長方形土坑墓。

②副葬品：磁器ミニチュア碗。

③出土部位：頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

④個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、1個体であると推定される。

⑤性別：頭蓋骨は比較的大きく頑丈であるため、男性であると推定される。

⑥死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

3. 遺構外出土人骨

本遺跡からは、多くの人骨が遺構外から出土しておりその出土位置も不明である。それらの大部分は四肢骨であり、次々と木棺墓が構築される際に位置が不明となった遺構出土人骨である可能性が高い。ここでは、頭蓋骨2点及び蔵骨器2点から出土した火葬人骨についてのみの記載にとどめる。

(1) 313番

①埋葬状態：不明である。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位：頭蓋骨が出土している。

④個体数：頭蓋骨のみであるので、1個体である。

⑤性別：頭蓋骨は残念ながら左右方向につぶれているため正確な計測はできない。しかしながら、眉弓が発達し乳様突起も発達しているため、男性であると推定される。

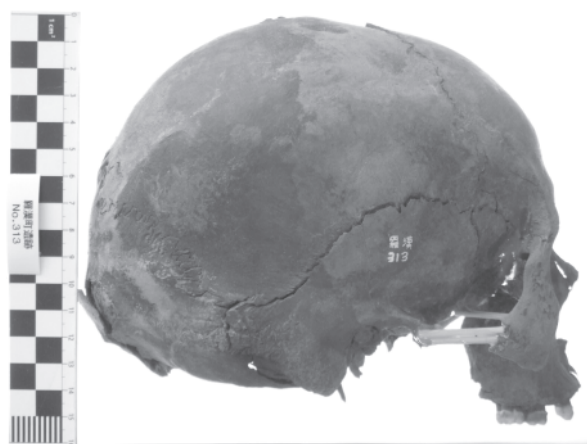


写真19. 313番頭蓋骨右側面観 [右が前]

⑥死亡年齢：冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合の外板は

すべて癒合しておらず開放の状態である。内板は、矢状縫合のみ癒合しかかっている状態である。上顎右には、第1小臼歯・第1及び第2大臼歯が残存している。第3大臼歯は出土していないが、歯槽部は残存しており萌出していたことは確かである。歯の咬耗度は、エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。総合的に、約20歳代であると推定される。

(2) 428番

①埋葬状態：不明である。

②副葬品：検出されていない。

③出土部位：頭蓋骨が出土している。

④個体数：頭蓋骨のみであるので、1個体である。

⑤性別 [表27参照]：頭蓋骨は、眉弓は発達しておらず、前頭結節が発達し乳様突起が発達していないので女性であると推定される。

⑥死亡年齢：冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合の内板はすべて癒合して閉鎖している状態である。外板は、癒合しかかっている状態である。総合的に、約30歳代～40歳代であると推定される。

⑦備考：脳が出土している。



写真20. 428番頭蓋骨上面観 [左が前]



写真21. 428番頭蓋骨左側面観 [左が前]

(3) 火葬人骨 1

- ①出土状態：遺構外出土遺物の美濃陶器有耳壺の蔵骨器内部から出土している。
- ②出土部位：一部ずつではあるが、ほぼ全身の部位が出土している。但し、四肢骨片が多く頭蓋骨片が少ない傾向がある。
- ③火葬温度：火葬人骨の色は、白色から灰白色を呈しているため、焼成温度は約900度以上であったと推定される。しかしながら、一部には黒色を呈している人骨もあるので、一部焼成ムラがあったと推定される。
- ④火葬方法：火葬人骨には、捻れや歪みが認められないため、死体をそのまま焼成したのではなく、白骨化させたものを焼成した可能性が高い。なお、群馬県の中近世人骨でこの火葬方法は初めてである。
- ⑤収骨（拾骨）方法：出土人骨の量は少ないため、現代の西日本に認められる、一部の火葬人骨のみを拾骨し蔵骨器に収骨した、西日本タイプの収骨方法であると推定される。
- ⑥被火葬者の個体数：火葬人骨には、重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑦被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、火葬人骨は小さく華奢であるため、女性であると推定される。
- ⑧被火葬者の死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、脛骨の遠位端の骨端部は癒合しているため、成人であると推定される。

(4) 火葬人骨 2

- ①出土状態：遺構外出土遺物の瀬戸美濃陶器有耳壺の蔵骨器内部から出土している。
- ②出土部位：一部ずつではあるが、ほぼ全身の部位が出土している。但し、四肢骨片が多く頭蓋骨片が少ない傾向がある。
- ③火葬温度：火葬人骨の色は、白色から灰白色を呈しているため、焼成温度は約900度以上であったと推定される。
- ④火葬方法：火葬人骨には、捻れや歪みが認められるため、白骨化させたものを焼成したのではなく、死体をそのまま焼成した可能性が高い。
- ⑤収骨（拾骨）方法：出土人骨の量は少ないため、現代の西日本に認められる、一部の火葬人骨のみを拾骨し蔵骨器に収骨した、西日本タイプの収骨方法であると推定される。
- ⑥被火葬者の個体数：火葬人骨には、重複部位が認められないため、1個体であると推定される。
- ⑦被火葬者の性別：火葬による収縮を考慮しても、火葬人骨は小さく華奢であるため、女性であると推定される。
- ⑧被火葬者の死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないが、恐らく成人であると推定される。

まとめ

群馬県高崎市に所在する、羅漢町遺跡から、近世人骨が出土した。

(1) 個体数

- ・遺構：27基の木棺墓から28体の人骨が、1基の土坑から1体の人骨の合計29体が出土した。
- ・遺構外：遺構外から2体・蔵骨器から2体の火葬人骨の合計4体が出土した。
- ・合計：遺構29体及び遺構外4体の、合計33体が出土した。

群馬県内の近世遺跡でこれだけ多くの近世人骨が出土したのは、初めてであると推定される。

実際、群馬県内の近世人骨を比較的多く出土した遺跡をみると、見立峯遺跡Ⅱ〔渋川市〕で15体（榑崎2003）・生品西浦遺跡〔利根郡川場村〕で16体（榑崎2005）・上ノ平Ⅰ遺跡〔長野原町〕で16体（榑崎2008）が出土しているが、本遺跡ではそれらの約2倍の数の近世人骨が出土している。

(2) 性別

- ・遺構：男性13体・女性16体である。但し、女性16体の内1体は、未成年である。
- ・遺構外：男性1体・女性3体である。
- ・合計：男性14体・女性19体が出土した。

(3) 死亡年齢

- ・遺構：男性13体の内訳は、約20歳代が1体・約30歳代が2体・約30歳代～40歳代が1体・約40歳代～50歳代が1体・老齢が1体・成人が7体である。女性16体の内訳は、約9歳～10歳が1体・約20歳代が1体・約30歳代が2体・約30歳代～40歳代が2体・約30歳代～老齢が1体・老齢が1体・成人が8体である。
- ・遺構外：男性1体は、約20歳代である。女性3体の内訳は、約30歳代～40歳代が1体・成人が2体である。
- ・合計：男性14体の内訳は、約20歳代が2体・約30歳代が2体・約30歳代～40歳代が1体・約40歳代～50歳代が1体・老齢が1体・成人が7体である。女性19体の内訳は、約9歳～10歳が1体・約20歳代が2体・約30歳代が2体・約30歳代～40歳代が2体・約30歳代～老齢が1体・老齢が1体・成人が10体である。

(4) 身長推定

身長推定ができた個体は、9体で、男性2体・女性7体である。

- ・男性：男性2体は、どちらも156cmと推定された。
- ・女性：女性7体は、約145cmが1体・約146cm～151cmが1体・約150cmが2体・約150cm～155cmが1体・約153cmが1体・約153cm～156cmが1体と推定された。

元北里大学の故平本嘉助による大腿骨を使用した研究では、近世人骨の推定身長は、男性が平均約157.1cm〔147.2cm～167.2cm〕・女性が平均約145.6cm〔137.7cm

～157.1cm] である。本遺跡出土人骨も、すべて、この範囲に収まる。

(5) 古病理

古病理として、冠状縫合の右側のみが早期に癒合した頭蓋骨縫合早期癒合症の女性成人1個体と広汎性特発性骨増殖症(DISH)の男性成人1個体が認められた。

(6) 人骨の埋葬方法

木棺墓の大きさは、平均で、長軸約50cm・短軸約45cm・高さ約60cmであり、実験では座って両脚を胴体に付け、首を前側に折り曲げた状態の座棺がその納め方として最も妥当なものであると推定されている(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011)。

東京都内の近世遺跡、一橋高校遺跡での早桶の大きさと身長とを検討した、前出の平本嘉助によると、「桶底部の大きさは約60cmであり、脊柱と頭蓋は骨盤と上で極度に曲げて入れられており、下肢の骨は膝を曲げて身体の両脇に位置するようにしていた。」・「この遺跡から出土した人骨は、全て極度に脊柱を曲げて顔が前面に落ちそうな姿勢の屈葬であった。」と記載されている(平本 2004)。また、法医学的考察もされており、「死後硬直後も、筋をさするなりすれば緩解し、関節を曲げることは可能である。」と記載されている(平本 2004)。



写真22. 羅漢町遺跡木棺出土状況(左から、18号・19号・20号木棺)[2009年11月20日、本報告者が西から撮影]

本遺跡出土人骨は、遺物として認定されなかったため、調査終了後、法輪寺に返却され茶毘にふされた。

なお、前出の報告書に記載した内容と今回の報告とでは、個体数・性別・死亡年齢等に若干の齟齬が認められるが、今回詳細に再検討した結果、報告内容の訂正を行っているため、今後は本報告の結果を引用されたい。

謝辞

本遺跡出土人骨を調査する許可をいただいた、法輪寺及び関係者の方々に感謝いたします。また、本稿を発表する許可をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の年報紀要委員の皆様方に感謝いたします。

さらに、考古学的情報を与えていただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の坂口 一氏、発掘調査時に現場で説明していただいた、元(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で現伊勢崎市立第二中学校の斎藤 聡氏に感謝いたします。

引用文献

- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 2011 『羅漢町遺跡』、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編
- 榑崎修一郎 2003 「第7章 見立峯遺跡Ⅱ出土人骨」、『横の地区遺跡群Ⅳ. 見立峯遺跡Ⅱ・滝沢日向堀遺跡』、群馬県勢多郡赤城村教育委員会編、pp.257-277.
- 榑崎修一郎 2005 「生品西浦遺跡出土人骨」、『生品西浦遺跡』、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編、pp.178-208.
- 榑崎修一郎 2008 「上ノ平Ⅰ遺跡出土人骨」、『上ノ平Ⅰ遺跡』、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編、pp.151-180.
- 榑崎修一郎 2011 「4 出土品の鑑定・分析、(1) 羅漢町遺跡出土人骨」、『羅漢町遺跡』、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編、pp.15-18.
- 馬場悠男 1991 『人類学講座・別巻1. 人体計測法Ⅱ. 人骨計測法』、雄山閣出版
- 平本嘉助 1972 「縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化」、『人類学雑誌』、80: 221-236.
- 平本嘉助 2004 「江戸時代人の身長と棺の大きさ」、『墓と埋葬と江戸時代』(江戸遺跡研究会編)、吉川弘文館、pp.201-223.
- 藤井 明 1960 「四肢骨長の長さと身長との関係に就いて」、『順天堂大学体育学部紀要』、3: 49-61.

表26. 羅漢町遺跡出土人骨一覧表

No.	遺構名	遺構			個体数	性別	死亡年齢	備考
		形状	長軸	短軸				
1	1号木棺	方形	55cm	45cm	1個体	男性	30～40歳代	—
2	3号木棺	方形	60cm	45cm	1個体	男性	老齡	—
3	4号木棺	方形	50cm	30cm	1個体	女性	約30歳代	—
4	5号木棺	樽?	60cm	30cm	1個体	男性	成人	—
5	6号木棺	方形	50cm	45cm	1個体	男性	約20歳代	—
6	7号木棺	方形	45cm	45cm	1個体	女性(女兒)	約9歳～10歳	—
7	8号木棺	樽	底面直径約50cm		1個体	女性	約30～40歳代	約145cm
8	9号木棺	方形	70cm	不明	1個体	男性	成人	—
9	10号木棺	方形	50cm	50cm	1個体	女性	成人	—
10	11号木棺	方形	60cm	50cm	1個体	女性	老齡	—
11	12号木棺	方形	50cm	50cm	1個体	女性	成人	約153cm
12	13号木棺	方形	50cm	40cm	1個体	女性	約20歳代	—
13	15号木棺	方形	60cm	55cm	1個体	女性	約30歳代～老齡	頭蓋骨縫合早期癒合症
14	16号木棺	方形	45cm	45cm	1個体	男性	成人	2個体の可能性
15	17号木棺	方形	55cm	55cm	1個体	男性	約30歳代	—
16	18a号木棺	方形	55cm	50cm	1個体	女性	成人	150cm～155cm
17	18b号木棺	方形	55cm	50cm	1個体	女性	成人	—
18	19号木棺	方形	50cm	50cm	1個体	女性	成人	146cm～151cm
19	21号木棺	方形	55cm	45cm	1個体	女性	成人	153cm～156cm
20	22号木棺	方形	70cm	40cm	1個体	男性	成人	—
21	23号木棺	方形	50cm	50cm	2個体	男性	成人	約156cm・DISH
						女性	成人	約150cm
22	24号木棺	樽	55cm	55cm	1個体	男性	40歳代～50歳代	—
23	26号木棺	方形・樽	50cm	不明	1個体	男性	成人	156cm
24	27号木棺	樽	55cm	50cm	1個体	男性	成人	—
25	28号木棺	方形	40cm	30cm	1個体	女性	成人	—
26	30号木棺	方形	45cm	40cm	1個体	女性	約30～40歳代	—
27	31号木棺	方形	45cm	45cm	1個体	女性	約30歳代	約150cm
28	1号土坑	長方形	165cm	80cm	1個体	男性	成人	—
29	遺構外313	不明	不明	不明	1個体	男性	約20歳代	
30	遺構外428	不明	不明	不明	1個体	女性	約30～40歳代	
31	蔵骨器1	不明	不明	不明	1個体	女性	成人	火葬人骨
32	蔵骨器2	不明	不明	不明	1個体	女性	成人	火葬人骨

表27. 羅漢町遺跡出土人骨頭蓋骨計測値

計測項目 (Martin's No.)	羅漢町遺跡出土人骨						近世人骨*		現代人**	
	1号木棺	4号木棺	15号木棺	30号木棺	31号木棺	428番	♂	♀	♂	♀
1 脳頭蓋最大長	—	172 mm	170 mm	—	176 mm	—	181.9 mm	175.4 mm	178.9 mm	170.8 mm
8 脳頭蓋最大幅	—	—	133 mm	130 mm	126 mm	136 mm	139.8 mm	136.8 mm	140.3 mm	135.9 mm
8 : 1 頭蓋長幅示数	—	—	78.2	—	71.6	—	76.9(中頭)	78.1(中頭)	78.5(中頭)	79.7(中頭)
9 最小前頭幅	—	84 mm	93 mm	90 mm	89 mm	—	94.5 mm	91.8 mm	93.2 mm	91.0 mm
12 最大後頭幅	—	—	—	—	104 mm	—	109.9 mm	105.8 mm	108.4 mm	104.2 mm
12 : 8 横頭頂後頭示数	—	—	—	—	82.5	—	78.6	76.6	77.3	76.8
25 正中矢状弧長	—	—	—	—	362 mm	—	373.4 mm	361.1 mm	371.7 mm	357.6 mm
26 正中前頭弧長	—	115 mm	115 mm	—	122 mm	—	126.7 mm	123.7 mm	127.4 mm	122.1 mm
27 正中頭頂弧長	125 mm	110 mm	126 mm	—	128 mm	130 mm	127.7 mm	123.9 mm	125.1 mm	121.0 mm
28 正中後頭弧長	—	—	—	—	112 mm	—	119.2 mm	113.0 mm	119.1 mm	114.3 mm
27 : 26 矢状前頭頂示数	—	—	—	—	104.9	—	101.1	100.7	98.6	98.9
28 : 26 矢状前頭後頭示数	—	—	—	—	91.8	—	94.2	91.4	93.6	93.9
28 : 27 矢状頭頂後頭示数	—	—	—	—	87.5	—	93.3	91.2	95.4	95.4
26 : 25 前頭矢状弧長示数	—	—	—	—	33.7	—	33.9	34.3	34.3	34.2
27 : 25 頭頂矢状弧長示数	—	—	—	—	35.4	—	34.2	34.3	33.7	33.8
28 : 25 後頭矢状弧長示数	—	—	—	—	30.9	—	31.9	31.3	32	32
29 正中前頭弦長	—	103 mm	102 mm	—	104 mm	—	111.4 mm	108.7 mm	111.8 mm	106.5 mm
30 正中頭頂弦長	114 mm	102 mm	110 mm	—	115 mm	118 mm	114.6 mm	111.2 mm	111.8 mm	108.6 mm
31 正中後頭弦長	—	—	—	—	90 mm	—	99.1 mm	96.8 mm	100.4 mm	97.0 mm
29 : 26 矢状前頭彎曲示数	—	—	—	—	85.2	—	87.9	87.9	87.9	87.4
30 : 27 矢状頭頂彎曲示数	—	—	—	—	89.8	—	89.7	89.7	89.3	89.8
31 : 28 矢状後頭彎曲示数	—	—	—	—	80.4	—	85.7	85.7	84.5	84.9

註1 : 「*」は、鈴木(1967)より引用。

註2 : 「**」は、森田(1950)より引用。